

色に就て』は有益の話であり『水彩畫評』も挿入の寫眞版と共に面白く讀みました、しかし忘る可からざる記事は、みづゑの續刊に就ての一文です。尊敬すべき大下先生没後から本日に至る本誌の履歴を見ては同情にたえられませぬ。どうか編輯者諸君には御自重あつて本誌のために盡して下さい。(A A A 成節生) ▲僕は「みづゑ」を無二のフレンドとして居る、だから、毎月末になると毎日毎日郵便配達が來ると「みづゑ」ではないかと思つていつも出て行くのである、そして手に入ると先づ挿繪を見る、八十八號の原色版等はいづれもよかつた。して息もつかずに記事を読み通して仕舞ふ、さて見てしまふと又來月のが待ちどほしくて仕方ない、殊に卷末の來月豫告を見て大方を豫想して見ると尙更待ちとほしい、そしてわけもなく日の立つのを喜ぶのである。どうか、成るべく毎月早く發送して下さい。(小田原、合歡の花) ▲近頃「みづゑ」の體載が大分とよつて、非常に嬉しく思ふ、石川先生の御話は吾々地方の者には

非常に有益に思ふ。どうか講話めいたものをどしどし御掲載願ひたい(石狩、山崎生) ▲當地で此の夏講習會を開いて頂くわけにはゆかないでせうか。希望者も可成ある様に思ひます。吾々地方の者は直接良師につくことが出來難いから時々講習會の開かれん事を切に望むのである(青森市、松井高志)

新刊紹介

◎通俗觀音講話

壽山良海著

神奈川縣橋樹郡生見村生麥龍泉寺發行

菊版四百頁定價金一圓

觀音經全部を二十八席に分け、例を古今にとつて極めて通俗的に講義してある、卷頭には雲照律師の肖像及び其の筆蹟其他寫眞版數葉、兎に角一見して著者の苦心の程が察せられる。

◎サソラ(第二號)五月廿日發行

大阪市外大仁一八一ノ三サソラ發行所

要目

ロダンの製作を胸に抱いて 今戸精司

畫室より 星野天外
玉手より 織田一磨
靈光 佐々草迷宮
短歌
大仁より
其他

寄稿を募る

□水彩畫寫生旅行、水彩畫展覽會紹介、又は批評、水彩描寫の經驗談、又は感想錄、水彩畫に關係ある書籍(和洋をとはず)の批評、水彩畫家傳、等其他苟くも水彩畫に關係したるものはすべて歓迎す。
□文章の長短等は隨意、他はすべて卷末の會告による。
□每號の登載文中秀逸なるものには『みづゑ』一部贈呈す。